

**臨床福祉専門学校**  
**言語聴覚療法学科 平成26年度 第一回教育課程編成委員会 議事録**

日時：平成26年9月25日（木） 14：30～15：30

場所：臨床福祉専門学校 202教室

出席委員及び所属

新井 英希（一般社団法人 日本補聴器販売店協会常務理事）

阿部 順子（特定非営利活動法人 日本補聴器技能者協会 理事）

内藤 明（臨床福祉専門学校 言語聴覚療法学科学科長）

萬崎 保志（臨床福祉専門学校 事務次長）

樋口 豊朗（臨床福祉専門学校 教務主任）

（内藤学科長挨拶）

今後、学科カリキュラムを検討する際には、外部意見として本委員会のメンバーの意見を積極的に反映していく方針である。

今回は、前回までの委員会にてご意見として頂いた、補聴器業界の領域・現状、認定補聴器技能者養成事業について学校側が深く理解するために、委員からレクチャーを頂く場としたい。その上で、本校のカリキュラムとの整合性を精査する。

**【議事方針】**

<認定補聴器技能者養成制度の理解を深める>

- ・事務局が用意した資料を基に、認定補聴器技能者養成課程を確認。
- ・認定補聴器技能者養成事業に関する見解（阿部委員）
  - 講習内容は、知識だけでなく実務として行っている内容と重複するものもある。
  - 言語聴覚士養成所は内容を本格的に学んでいるが、補聴器技能者養成課程の方は「広く浅く」で範囲を網羅するイメージ。その点で若干方向性が異なる。
  - STの有資格者（聴覚分野・現場に興味があるかは別として）の受講者が増えている。

<言語聴覚士養成カリキュラムへの応用について>

聴覚障害分野に関する連携において、STの目線ではなく補聴器業界からの目線も反映させたい。学習内容の整合性・情報提供・協力体制などについて意見交換をしたい。（内藤）

（各委員より）

- ・認定補聴器技能者に出来ること・言語聴覚士に出来ること双方について理解を深める必要がある。（阿部）
- ・認定補聴器に携わる協会の意見確認を行う必要がある。（新井委員）
- ・補聴器業界、現場で起こっている問題等を提起するような授業を依頼したい。（内藤）
- ・授業以外にも職場見学・現場教育の依頼を行っていききたい。（内藤）

#### 本会議概略まとめ

- ① 今回は、認定補聴器技能者養成事業について各委員からヒアリングし、学校側の理解を深める事がおよその目標であった。以後、本校のカリキュラム編成において、団体単位という大がかりなものではないとしても、委員の所属する企業・個人レベルで意見を頂き、その内容を受け止めていく。
- ② 今回も福祉現場における補聴器の取り扱いについて話題が及んだが、認定補聴器業界と言語聴覚士養成所の連携が必要という点では双方の見解が一致した。
- ③ 本会議は最低年2回の開催が必須であるが、次回会議までに、具体的な連携について関係団体側の声をヒアリングして頂き、次回各委員より伺うこととする。

(文責：事務局 樋口)